

いわき農林水産ニュース

ひとつ、ひとつ、実現する ふくしま

令和8年 2月号

Vol.252

発行日

2026/3/4

- 01 lwakiならではのグルメをつくろう お披露目会
- 03 各種取組の実績（1～2月分）
- 08 お知らせ
 - 08 食品表示法あれこれ ⑪
 - 09 全国山火事予防運動
 - 09 いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果（1月分）
 - 09 いわき地方の出荷制限品目
 - 10 あとがき

「高校生発！lwakiならではのグルメをつくろう」 お披露目会 2月7日(土)

1 当事業について

いわき産農林産物の魅力を発信するため、いわき市内の高校生と飲食店等の協力店が、いわき産「トマト・ネギ・米（Iwaki Laiki）・きのこ（しいたけ、エリンギ、なめこ）」をテーマ食材とした、いわきならではのグルメを共同開発する取り組みです。

今回は市内の高校生から 59 作品の応募があり、協力店の審査により選ばれた 5 作品を商品化しました。



商品名：ルージュビーフパイ
協力店：CROSS WONDER DINING
考案者：小名浜海星高等学校
吉田 悠萌 さん



商品名：ピリ辛ネギ200%
協力店：Delica cafe kibaco
考案者：いわき光洋高等学校
村上 遥陽 さん



商品名：ガーリックチャーハン
協力店：中華料理 華正樓
考案者：磐城農業高等学校
富山 夏葵 さん
秋山 こころ さん



商品名：しいたけとベーコン
バジルパン
協力店：all about bakery
考案者：いわき光洋高等学校
長瀬 叶穂 さん



商品名：いわきのネギとエリンギ入り とうけるね
ぎ味噌軍艦
協力店：株式会社マルト
考案者：小名浜海星高等学校
阿部 頼登 さん



2 開発商品のお披露目会

マルトSC平子店において、5つの商品のお披露目会を開催しました。当日は、主催者である県いわき農林事務所長と来賓のいわき市農林水産部長の挨拶の後、高校生と協力店、そして地元農業者が各商品や地元農産物のPRを行いました。



当日は、新聞やテレビの取材もあり多くの関係者が参加しましたが、高校生は、緊張しながらも自分の言葉で商品のおいしさや商品開発の感想などを紹介しており、とても頼もしく感じました。

このほか、協賛いただいたJA福島さくらいわき統括センターからいわきの特産品セット（いちご、ドレッシング等）、常磐共同ガス株式会社からスパリゾートハワイアンズのペアチケットが贈られ、高校生たちの笑顔が輝いていました。

お披露目会の様子は、3月4日（水）午後8時54分から、福島テレビの県政広報番組「キビタンGO!」で放送されます。そちらもぜひご覧ください。

(企画部)



▲商品のお披露目の様子



▲いわき農林事務所長の賞状授与



▲常磐共同ガス(株) 野木供給部長
の副賞授与



▲JA福島さくら いわき統括センター
酒井宮農課長の副賞授与



▲テレビ取材の様子



▲関係者の集合写真



工事現場安全パトロール

1月20日(火)

当所が発注する農林土木工事における労働災害を未然に防止することを目的に、市内建設会社や当所で構成するいわき農林事務所管内建設工事安全推進協議会による工事現場安全パトロールを行いました。

また、いわき労働基準監督署の労働基準監督官にも参加いただき、総勢13名が管内2箇所の現場（山腹工、区画整理工）を巡回しました。両現場とも基本的な安全対策がきちんと行われており、現場内も整理整頓されているなど適切に施工されていることを確認したところです。

引き続き、労働災害を発生させないよう基本的なルールを遵守するなど、安全衛生対策の徹底に取り組んでまいります。

(総務部、農村整備部、森林林業部)



▲巡回の様子



▲管内現場（区画整理工）

新しく指導農業士となられた蛭田秀史さんに認定書を交付

1月22日(木)

令和7年度福島県農業士認定証交付式が、杉妻会館（福島市）で開催されました。

「指導農業士」とは、優れた農業経営を行いつつ、新規就農者等の育成に指導的役割を担い、農業に意欲的に取り組み地域のリーダーとして期待される農業者です。いずれも各市町村からの推薦を受けて、知事が認定しています。

今年度は、福島県内で新たに指導農業士として12名が認定され、いわき市からは蛭田 秀史さんが認定となり、農業士認定証を交付されました。蛭田さんは、田人町で20aの田人観光いちご園を営み、いちごの“章姫”、“紅ほっぺ”を栽培しています。今年は1月3日からいちご狩りをオープンし、6月まで開園する予定です。いちご狩りのほか「いちごアイス」、「いちごジャム」の6次化商品にも取り組んでいます。

当所では、引き続き農業士とともに、農業者の育成や地域農業の振興に取り組んでまいります。

(農業振興普及部)



▲認定証を交付される蛭田さん



▲農業士認定証を手にする蛭田さん



森林経営管理制度事業説明会

1月28日(水)

森林所有者が自ら手入れを行えない森林を、一定期間市町村が預かり、間伐等の管理を行う「森林経営管理制度」という制度があります。この制度の説明会が、いわき市の主催により上神谷集会所で開催されました。

この制度は、市町村が、森林の経営管理について所有者からの委託を受けたり、林業事業体に管理を再委託したりすることにより、林業経営の効率化と森林管理の適正化を促進するための仕組みです。

説明会では、いわき市の職員が制度についての説明を行い、地区の森林整備の進め方について意向を確認しました。地区の森林所有者である参加者からは、「自分で森林整備を実施できる状況ではないため、市が管理してくれるならば是非お願いしたい。」、「まとまった面積があった方がよいとの説明だったが、隣の地区の森林もまとめた方がよいのであれば声をしたい。」といった意見が出されました。

今後、所有者の合意形成が図られ、森林整備の取組が進むことが期待されます。

(森林林業部)



▲説明会の様子

いわき市農林業賞授賞式

1月30日(金)

いわき市主催の令和7年度いわき市農林業賞表彰式が、いわき市内郷のクレールコートで行われました。今年度は、「個人・団体の部」と「青年の部」で1団体、2名が受賞されました。

個人・団体の部を受賞された平子 作麿さんは、市内の国有林および市有林を活用し、素材生産や森林整備に長年従事され、地域の森林資源の保全と適正な管理に大きく貢献してこられました。また、磐城林業協同組合の理事長として組合運営を担うとともに、チェーンソー取扱作業指導員として林業従事者への安全教育に尽力されるなど、市全体の林業の安全確保と技術向上にも大きく寄与されています。

同じく個人・団体の部を受賞された株式会社JRとまとランドいわきファームは、サンシャイントマト出荷協議会の一員として、四倉町において大規模トマト栽培に取り組み、地域における雇用の創出にも大きく貢献されています。また、自社で生産したトマトを活用したレストランの運営や、6次化商品の開発・販売にも積極的に取り組むなど、生産から加工・販売までを一体的に行う経営の多角化を推進しています。

青年の部を受賞された折笠 明憲さんは、遠野地区の担い手として、大規模な水稻栽培をはじめ、多品目にわたる野菜の生産に取り組まれています。広範な農地の有効活用と適切な保全に大きく貢献されているほか、地域の小学生を対象とした食育活動や新規就農者の育成など、地域農業を支える多様な取組にも積極的に従事されています。

皆さま、この度は受賞おめでとうございます。今後も更なる活躍を期待しています。

(企画部)



▲市長、市議会議長と受賞者の皆様



第3回いわき地域新農業人レベルアップ塾

1月30日(金)

今年度3回目となるレベルアップ塾をいわき合同庁舎で開催し、新規就農者や関係機関等を含め約30名が参加しました。今回は「労働力の確保」をテーマに、ふたば社労士事務所長の篠木 健一氏とJ A福島中央会食農振興部の齋藤 柚香氏に御講演いただきました。

篠木氏からは、パート・アルバイトの雇い方や労務管理全般について、齋藤氏からは、短期バイト（デイワーク）の概要説明と雇用による経営改善事例紹介についてお話しいただきました。

参加者からは「面接の際に注意すべきこと」や「短期バイト募集のやり方」など積極的に質問をしていました。

次回は、3月12日（木）に「農業経営改善のやり方」をテーマに今年度最後の開催となります。新規就農者だけでなく、興味がある方は是非御参加ください。

(農業振興普及部)



▲講演の様子①



▲講演の様子②

令和7年度林業研究グループ等活動発表会

1月30日(金)

令和7年度林業研究グループ等活動発表会が林業研究センター（郡山市安積町）において開催されました。この発表会は、県内において森林・林業に関する自主的な実践活動を行っているグループの活動内容を発表することにより、各グループの活動の展開や交流を図ることを目的に毎年開催されています。

いわき管内からは、常磐藤原町湯ノ岳で活動している「常磐湯ノ岳生産森林組合」の矢内組合長が、これまでの取組について発表しました。湯ノ岳での植樹祭の開催や不法投棄物回収パトロール等、地域を活性化させ、より良い環境とすることを目的とした活動について発表し、審査委員長からは「計画的に地域と関わっていく素晴らしい取り組みだ」とコメントをいただきました。

他のグループからも、林内のマタタビの実の活用や、森林経営を学ぶボードゲームの作成など、多彩な発表が行われ、有意義な発表会となりました。

当所では、引き続き管内の林業研究グループ等の活動を支援してまいります。

(森林林業部)



▲発表する矢内組合長



いわき農業青年クラブ連絡協議会が視察研修を実施

2月5日(木)、6日(金)

いわき農業青年クラブ連絡協議会では、会員の資質向上を目的として毎年視察研修を行っています。今年は2月5日～6日に実施しました。

2月5日は、大熊町にあるネクサスファームおおくまのいちご施設と宮城県亘理郡の丸子 徹朗氏のいちごハウスを見学しました。両ハウスとも環境制御技術の活用方法や、病虫害防除などで工夫していることを学習しました。ハウス内の病虫害防除について苦労している会員がいるため、LEDを活用した害虫トラップなどに関心を持っている様子でした。



▲ネクサスファームおおくまの視察

2月6日は、富岡町のネギ生産者である渡邊 隆幸氏と吉田 和史氏を訪問し、ネギの出荷調製施設の見学や今後の経営方針等についての意見交換を行いました。会員はネギの根切り・葉切りから選別までの作業を手作業で行っているため、これらの作業が機械化されている様子を見て、規模拡大に必要な手段として関心を持っている様子でした。

当所では、引き続き青年クラブの活動を支援してまいりますので、いわき農業青年クラブ連絡協議会の活動に興味のある方は農業振興普及部までご連絡ください。

(農業振興普及部)

ふくしま満点堂グランプリ2025 最終審査

2月9日(月)

6次化商品の販路開拓に役立つ商品表彰を目的として、福島県が実施している「ふくしま満天堂グランプリ」。惜しくもグランプリ受賞とはなりませんでした。今年度の上位10商品「ふくしま満天堂プレミアム商品」に、(株)いわきチョコレート「めひかり塩チョコ 会津山塩」と、西野屋食品(株)の「のっける葱ま」が選ばれました。

「めひかり塩チョコ 会津山塩」は、なめらかな生キャラメルを上質なチョコレートで包み、会津山塩を添えたスイーツです。やさしい塩味が、キャラメルとチョコレートそれぞれの上品な甘さを引き立て、後味まで楽しめる一品です。

「のっける葱ま」は、シャキシャキとしたネギの甘みと食感に、鶏肉のうま味と味噌のほどよい塩味を合わせた、ご飯がすすむ味わいの一品です。普段の食卓はもちろん、忙しい日の手軽な一品としてもお楽しみいただけます。

どちらの商品も各会社の店舗及びオンラインストアと、道の駅 いわき・ら・ら・ミュウ等で購入可能です。たくさんの応募の中から選ばれた逸品を、皆様も是非お召し上がりください。

(企画部)



▲めひかり塩チョコ 会津山塩



▲のっける葱ま



ふくしま満天堂HPはこちら！

第4回「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン開催！ 2月14日(土)

いわき市産農林産物の魅力を消費者に直接伝えとともに、GAP認証農林産物の購買意欲を高めることを目的に、ファーマーズマーケット いがっぺで、今年度最後となる「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを実施しました。

当日は、いちごの試食に加え、認証GAPに関するアンケートにご協力いただいた方200名に、いわき市産のいちご（「ふくはる香」「紅ほっぺ」）などをプレゼントしたほか、6次化商品の「ふえいじょあ羊羹」、「JA福島さくら トマトジュース」の試食・試飲も実施しました。試食コーナーでは、いちごの粒の大きさにびっくりし、思わず笑みがこぼれる方が多くみられました。

アンケート調査の結果、認証GAPの認知度は約40%で、ほぼ全ての方が「今後GAP認証品を購入したい」と回答していました。

当所では、引き続き関係機関と連携しながら、いわき市産農林産物や認証GAPのPRに取り組んでまいります。

(企画部・農業振興普及部)



▲いちごの試食



▲いちご等のプレゼント



▲アグリン☆ファイブの
さる1号によるPR

令和7年属地水揚実績（速報値）

1月20日(火)

福島県地域漁業復興協議会で令和7年の属地水揚実績（県内の漁港に水揚げされたもの）の速報値が県漁業協同組合連合会より公表されました。県全体の水揚量は12,644トンで前年の123.0%、水揚金額は5,016,121千円で前年の121.5%でした。

このうち、いわき市内のいわき市漁業協同組合と小名浜機船底曳網漁業協同組合の合計値は、水揚量が7,039トンで前年の137.9%、水揚金額が1,562,362千円で前年の117.2%と、いずれも前年を上回りました。

主な要因として、いわき市には、ヒラメやアワビなど沿岸漁業による漁獲物に加え、まき網漁業やサンマ棒受網漁業などの沖合漁業により、カツオやサンマなどが水揚げされています。特に沿岸漁業は地域漁業復興計画に基づき着実に水揚げを増やしていること、さらにサンマの漁場が福島県近海に形成されたことによりサンマの水揚量が771トンで対前年比645.2%と大きく増加したことが挙げられます。



▼沖合漁業（さんま棒受網漁業）で
水揚げされたサンマ



▼沿岸漁業（底びき網漁業）で
水揚げされたヒラメ

現在、福島県の漁業は、「本格操業に向けた移行期間」として各漁協が作成したロードマップに従い、震災前の水揚量の6割までの回復を目標に計画的に操業を行っています。今後も福島県の漁業復興を支援してまいります。

(水産事務所)

食品表示あれこれ ⑪食品表示のこれから

食品表示基準は、毎年様々な改正が行われています。近年では、アレルギー表示の義務品目・推奨品目の見直し、機能性表示食品に係る改正や、食品添加物の表示義務免除規定の一部削除などが行われた他、個別品目ごとの表示ルールの見直しが行われている最中です。

このような見直しに係る意見は、消費者庁の食品表示懇談会や各種分科会において、食品業界や消費者関係団体の有識者等によって取りまとめられています。

最新の懇談会資料等から、今後の食品表示制度の展開をある程度読み取ることができますので、食品関連事業者のみなさまにおかれては、目を通しておくことをおすすめします。

【今後の制度改正が予想される事項】

1 個別品目ごとの表示ルールの見直し

個別ルールは、食品表示基準別表で規定されています。旧 JAS 法（まがいもの防止、消費者への情報提供）、旧食品衛生法（衛生上の危害の防止、食品の取扱いについての情報提供）から引き継がれたものですが、時代に合わない規定や食品表示法の横断的表示義務との重複等を見直し、視認性の高い表示を実現するため、順次検討が進んでいます（令和6年度20品目改正、令和7年度22品目検討）。

○検討内容の例

- ・別表第3 ドレッシング及びドレッシングタイプ調味料
「ノンオイルドレッシング」の定義を新設。「マヨネーズ」以外のドレッシング及びドレッシングタイプ調味料は、現在の名称に加え、「ドレッシング」または「ノンオイルドレッシング」として表示可能とする。
- ・別表第3、別表第4 食用植物油脂
植物油脂の多様化に伴い、別表第3の限定列举を廃止。植物油脂のうち食用に適するように処理されたものを「食用〇〇油」と表示する。
- ・別表第19 個別的表示事項
標準的な調理方法や使用方法は、事業者自らが表示している状況であるため、義務表示を廃止する。

2 ナッツ類の食物アレルギー表示の見直し

アレルギー症例数の実態調査等をもとに、カシューナッツを特定原材料へ移行、ピスタチオを特定原材料に準ずるものへ追加する方針となっています（R8.1.13 消費者委員会へ諮問）。

<改正後>

特定原材料 (基準別表第14)	特定原材料に準ずるもの (通知で措置)
えび <u>カシューナッツ</u> かに くるみ 小麦 そば 卵 乳 落花生	アーモンド、あわび、いか、いくら、オレンジ、 <u>【削除】</u> キウイフルーツ、牛肉、ごま、さけ、さば、大豆、鶏肉、バナナ、 <u>ピスタチオ</u> 、豚肉、マカダミアナッツ、もも、やまいも、りんご、ゼラチン

<改正前>

特定原材料 (基準別表第14)	特定原材料に準ずるもの (通知で措置)
えび <u>【新設】</u> かに くるみ 小麦 そば 卵 乳 落花生	アーモンド、あわび、いか、いくら、オレンジ、 <u>カシューナッツ</u> 、キウイフルーツ、牛肉、ごま、さけ、さば、大豆、鶏肉、バナナ、 <u>【新設】</u> 、豚肉、マカダミアナッツ、もも、やまいも、りんご、ゼラチン

令和7年度第2回食品表示懇談会資料より

3 食品表示へのデジタルツール活用可能性の検討

食品の容器包装への表示に替えて、デジタルツールを活用する方法が検討されています（例：表示の一部分について、二次元コードを読み取ってスマートフォン等で確認する等）。制度や技術面で様々なメリット・デメリット、解決すべき課題が存在しているため、引き続き分科会等で議論が行われていく模様です。

消費者庁 令和7年度第2回食品表示懇談会の資料一式はこちら →



(企画部)



全国山火事予防運動

3月1日(日)～3月7日(土)

「山火事を 起こすも防ぐも 私たち」を統一標語に3月1日から3月7日まで、全国で山火事予防運動が行われます。

当所では、いわき地方山火事防止連絡協議会を構成する関係機関とともに山火事予防を広く呼びかけていきます。

冬から春にかけては空気が乾燥し山火事が発生しやすい時期で、大規模な火災につながる危険性が高まります。林野火災注意報・警報が発令された時は、たき火や火入れをしない、たばこのポイ捨て厳禁、吸い殻は持ち帰る等、火の取り扱いに注意しましょう。

(森林林業部)



▲山火事予防ポスター

いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果(令和8年1月分)

令和8年1月の農林畜産物モニタリングでは、3品目3検体を検査し、全ての検体について放射性セシウムは検出されませんでした。内訳は(表1)のとおりです。

また、令和8年1月の水産物モニタリング検査では、93検体の海産魚介類を検査し、すべての検体について放射性セシウムは検出されませんでした。

(表1)品目と検体数

イチゴ(施設) 1、牛肉 1、原乳 1

いわき地方の出荷制限等品目

令和8年1月末現在、いわき地方の農林畜水産物のうち、出荷制限等の対象となっている品目は(表2)のとおりです。

出荷制限等品目は、出荷・販売だけでなく、宿泊施設等での提供や加工用原材料として使用することもできません。また、自主検査等により基準値(100Bq/kg)以下であっても出荷・販売はできませんのでご注意ください。

(表2)農林畜水産物の出荷制限等品目(令和8年1月末日現在)

制限、自粛	区分	品目
出荷制限	山菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ(野生のものに限る)、わらび(野生のものに限る)※1、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ(露地)、野生きのこ※2
自粛	山菜	さんしょう(野生のものに限る)

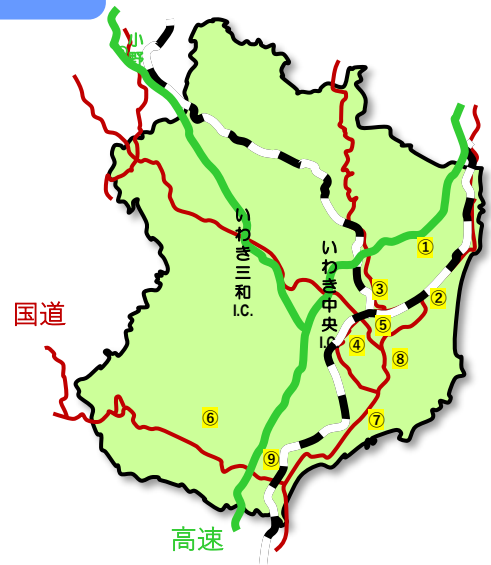
※1 わらび(栽培)で出荷・販売できるものは、安全性が確認されたほ場で生産されたものに限りです。(市内該当生産者23名のみ)

※2 野生きのこは、摂取も制限されています。

今月号に掲載した場所はこちら！

- ①CROSS WONDER DINING (P1)
四倉町中島広町地内
- ②Delica Cafe Kibaco (P1)
平下神谷下川原地内
- ③中華料理 華正樓 (P1)
平下平窪四左工門地内
- ④all about bakery (P1)
草木台1丁目地内
- ⑤マルトSC平尼子店 (P1)
平字尼子町地内
- ⑥田人観光いちご園 (P2)
田人町旅人下平石地内
- ⑦株式会社いわきチョコレート (P6)
小名浜丹波沼地内
- ⑧西野屋食品株式会社 (P6)
常磐上矢田町田端地内
- ⑨ファーマーズマーケット いがっぺ (P7)
後田町柳町地内

いわき市 MAP



あとがき



あとがき

2月は、4年ぶりにサッカーJリーグ「いわきFC」と「福島ユナイテッドFC」による福島ダービーが開催されました。過去最多の観客数で盛り上がりを見せました。勝利したいわきFCの皆様、おめでとうございます。

さて、当所では、高校生がレシピ開発を行った「Iwaki ならではグルメ」が完成しました。販売終了時期は未定ですが、ぜひ食べてみてください。来年度もいわき農林水産ニュースにて、ならではグルメに応募のあった中からレシピを紹介していきますので、こちらもぜひお楽しみに！ (担当 S.U.)

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)
T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196
U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース